

「名インタビュアーになろう」

～相手に分かりやすいように語句を選択して話す～

必要な情報を引き出す際に、相手に分かりやすいように語句を選択して話すことに課題が見られました。そこで、本アイデア例では、身近な話題をテーマにして相互にインタビューをし合う学習を提案します。相手に聞きたいことを明確にした上で相互にインタビューをし合うとともに、インタビューをする立場だけでなく、回答者や評価者としての立場から適切なやり取りができたかどうかについて振り返ることで、相手に分かりやすいように語句を選択して話すことについて理解を深めることを狙いとします。

課題の見られた問題の概要と結果

A7 学校図書館で先生に相談する

A7ー 正答率 **54.8%** 先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す。

学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕

A 話すこと・聞くこと ウ

授業アイデア例

- ① グループごとにテーマを決め、どのような言葉で質問すればよいのかについて考える。
- ② グループ内で立場（インタビュアー、回答者、評価者）を決めてインタビューをする。評価者はインタビューの様子を動画で記録しながら、「インタビュアーは相手から引き出したいことが分かるように質問しているか」という観点で評価をする。
- ③ グループごとに記録した動画を見ながら振り返り、それぞれの立場でよかった点や修正が必要な点について意見を述べ合う。

インタビューのテーマの例

- 「最近、うれしかったこと」
- 「日常生活の中での忘れられない一言」など

〔動画を基にしたグループでの振り返りの例〕

インタビューのテーマ：「最近、うれしかったこと」

場面①

最近、うれしかったことを教えてください。

卓球大会の個人戦で優勝したことです。



インタビュアー



回答者

場面②

おめでとうございます。その大会には、どのくらいの選手が参加していたのですか。

ええと……。本校からは8人の選手が参加しました。



インタビュアー



回答者

場面③

……。大きな大会だったんですね。勝因は何だったと思いますか。

卓球部のみんなと練習メニューを考えて取り組んだことだと思います。



インタビュアー



回答者

これまでの練習とどのような点がかわったのですか。



回答者



評価者

答えづらかったのは、場面②の「どのくらいの選手が参加していたのですか」という質問です。選手の学年や実力を聞いているのか、本校からの参加人数を聞いているのか分かりませんでした。

場面②で知れたかったのは、大会全体の参加人数です。このときに、「どのくらいの選手が」ではなく、「大会全体で何人の選手が」と質問すればよかったのですね。

場面③でより詳しい情報を得るために、「練習メニューを考えて取り組んだ」という回答の後で、「どのような点がかわったのですか」と聞いたことはよかったと思います。



インタビュアー

- ④ よりよいインタビューをするための観点について、各グループで意見をまとめて発表する。教師は出された意見をまとめる。

よりよいインタビューをするためには、次のような観点到に留意するとよいですね。

- ・ 答えてほしい内容を引き出すことができる語句の使い方になっているか。
- ・ 事前に準備した質問だけでなく、回答された内容に対しても質問しているか。



教師

- ⑤ 交流を通して得られた観点到に注意して、立場をかえてインタビューをし、互いに評価し合う。

本授業アイデア例

活用のポイント！

- 本時の後に、グループやテーマをかえてインタビューをし合うことも考えられる。
- 「平成28年度【中学校】授業アイデア例」P.4「動画を用いて話し合いを振り返る」と関連させて指導することも考えられる。
- 国語科で学習したインタビューの仕方を、他教科等の学習に生かすことも考えられる。